

第 2 回男鹿市地域公共交通活性化協議会会議録

日時： 令和 5 年 1 2 月 2 6 日 午前 1 0 時 0 0 分

場所： 男鹿市民文化会館 2 階 大会議室

第2回男鹿市地域公共交通活性化協議会

令和5年12月26日 午前10時00分

出席委員（17人）

1号委員 小林 弘典

4号委員 佐藤 徳司 鏡 誠一 浮田 忠勝 敦賀 文雄 武内 信彦
糸井 博 三浦 達也

5号委員 船木 宏 高野 進 高桑 和雄 高橋 郁雄 児玉 守美
江島 昭光 進藤 清隆

6号委員 日野 智

7号委員 佐藤 博

代理出席（3人）

（委員名） （代理名）

2号委員 小野寺 智康 佐藤 大輝

3号委員 古屋 建一 伊藤 陽子

4号委員 尾上 さやか 外山 章

欠席委員（5人）

4号委員 渡部 寿

5号委員 敦賀 強 村井 一仁 松井 等

7号委員 三浦 昇

出席事務局職員

総務企画部長 鈴木 健

企画政策課課長 高桑 淳

企画政策課主幹 佐藤 誠

企画政策課 三浦 哲也

その他

株式会社ケーシーエス 増子 翔太

令和5年度第2回

男鹿市地域公共交通活性化協議会総会

日時 令和5年12月26日 午前10時00分

場所 男鹿市民文化会館2階 大会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 議事録署名委員の選任について
- (2) 男鹿市地域公共交通活性化協議会規約の改正について
(資料1)
- (3) 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の評価について
(資料2、3)

3. 報告事項

- (1) 路線バスの運行状況（報告資料1）
- (2) 男鹿市地域公共交通計画の策定状況について（報告資料2）

4. その他

- (1) 今後のスケジュールについて

5. 閉 会

(午前10時00分開会)

○ 事務局

それでは次第により進めさせていただきます。ここからの議事進行につきましては、会議規則によりまして、日野会長よりお願いいたします。

○ 日野会長

本日はよろしくをお願いいたします。

まず、議事の1、議事録署名委員の選任について、協議会規約の規定によって、2名の議事録署名委員を選任することとなっておりますが、選任方法についていかがいたしましょうか。特に案がないようでしたら、事務局に一任したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

～事務局一任の声～

○ 日野会長

事務局から案があればお願いいたします。

○ 事務局

それでは、事務局からご提案申し上げます。男鹿市商工会の三浦委員と男鹿市老人クラブ連合会の江島委員を推薦したいと思います。

○ 日野会長

事務局より畠山委員と江島委員を推薦する声がありましたので、ここでお諮りいたします。両名を議事録署名委員とすることにご異議ございませんか。

～異議なしの声～

○ 日野会長

異議がないようですので、議事録署名委員は畠山委員と江島委員に決定いたしました。どうぞよろしくをお願いいたします。

次に、議事の2、男鹿市地域公共交通活性化協議会規約の改正について、事務局から説明願います。

○ 事務局

資料1のとおり、今回協議会の規則を改正させていただきます。改正の内容について、規約中に「地域公共交通網形成計画」及び「形成計画」と現在表記されている箇所です。こちらが、現行の地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の中では、指定される法定計画の名称が「地域公共交通計画」もしくは省略名「交通計画」に変更されていることから、今回の協議会にて改正させていただきます。

- 日野会長
事務局からの説明に、質問、意見などございませんか。

～特になしの声～

- 日野会長
それではこの件につきましてお諮りいたします。本案に御異議はございませんか。

～異議なしの声～

- 日野会長
御異議がないようですので、男鹿市地域公共交通活性化協議会規約の改正につきましては、本案のとおり承認されました。

次に議事の3、令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の評価について、事務局から説明願います。

- 事務局

資料2に沿って説明させていただきます。補償対象事業者及び事業の概要について、市では国の補助金を申請し、援助を受けて運行しています。現在の運行事業者は浮田産業交通、秋田中央トランスポート、秋田観光バスの3事業者で5路線を運行しています。

②の事業概要について、令和4年10月から、令和5年9月までの運行計画を申請しています。そのため概要は、令和4年度6月の協議会で諮った計画に、実施予定事業として示していた事業を記載しています。

③は前回の事業評価結果の反映状況です。前回の評価というのが少し前の評価になっており、令和3年度の事業評価を行った際に評価された内容となっております。各路線の反映状況は、JR男鹿線及び各路線の円滑な乗り継ぎを維持したダイヤ編成、その他に現在の各路線200円で乗降可能な定額運賃を導入していますが、継続してまいります。男鹿北線は枝線である加茂線や安全寺線との乗り継ぎを無料化する乗り継ぎ乗車券の導入等の利便の向上を図っています。その他に時刻表の市内全戸配布、またホームページ及び広報誌等でのPR等を行い、利用促進を図っています。

④事業実施の適正について、すべてA評価を付けていますが、あくまで予定どおり事業が行われたということでA評価を付けています。

⑤目標効果達成状況について、A評価を付けた男鹿北線の輸送人員の目標を32,600人にしていますが、市民全員が1人あたり4.1回以上利用することを基に算出している目標値です。結果として、男鹿北線は38,980人となり、達成率も120%と大きく達成できています。達成要因は、乗り継ぎ乗車券等により利便性が大きく向上できたことや、雲昌寺のあじさい期間(6月7月)の観光利用が伸びたことにあります。

続いて、船越線はC評価を付けています。輸送人員目標を14,000人としていますが、輸送の実績は9,070人と1万人にも届かず、達成率も63%程度となっております。前年度から輸送人員の減少が大きく、要因としては、令和2年度に新規路線として

導入した男鹿市内循環線「おがぐる」が船越線の経路と重複している路線となっており、途中の運行経路は異なるものの、主に買い物需要に特化しているおがぐるに船越線の利用が流れていると考えています。

次に、B評価をつけた男鹿南線、五里合線、潟西線ですが、各目標値に対して、約80%台をキープ出来ております。五里合地区、潟西地区は特に人口減少や少子化がかなり進行しており特に少子化について、4月に潟西中学校が廃校となり、男鹿東中学校へ統合されており、学生利用の下支えが確実に減少したと考えられます。男鹿南線は、前年度と比べると利用状況が伸びており、鶴ノ崎海岸など観光需要も見込めるスポットの利用が伸びたことが要因と考えています。

⑥はJR男鹿線の活性化も視野に入れ、接続する路線の円滑な乗り継ぎのダイヤ編成計画について、引き続き検討していきます。また、男鹿北線、男鹿南線は観光利用も見込めると考えており、観光利用に即したダイヤ編成を今後、検討していきます。

定額運賃や乗り継ぎ乗車券等のPRに繋がるものは引き続き継続し、より一層の利用促進をするとともに、特にC評価となっている船越線のおがぐるとの住み分けも、検討しなければいけない段階であると考えます。五里合線と潟西線は新規需要をさらに開拓すべく、より一層PRに力を入れていきます。

○ 日野会長

ただ今の説明に、質問、意見などございませんか。

○ 進藤委員（男鹿市PTA連合会）

各交通事業者がそれぞれで企業目標を立てて努力されているかと思いますが、目標を達成できない理由は存在すると思います。ちなみに、現状はどのぐらい運行しているのでしょうか？

○ 事務局

現状、船越線、潟西線、男鹿南線は5往復、男鹿北線、五里合線は7往復運行しており、男鹿南線は国庫補助に含まれないスクールバスとしての運行もあります。各交通事業者には運行していただいておりますが、市内の路線は市からの委託事業となっています。他の自治体と比べると路線や便数は確保されていますが、今後の拡大は厳しいのが現状です。この後にご説明する公共交通計画の施策の中で利用促進や運行見直しなどを検討していきたいと考えています。

○ 日野会長

B評価とした路線があるようですが、これは沿線地域の少子化が原因で利用者の減少が進行していると認識してよろしいですか？

○ 事務局

五里合地区全体の人口が減少しています。若美地区も生徒数が100人を下回っており、小中学校の統廃合が進んでいます。

○ 日野会長

であれば沿線地域の人口減少が要因であることを示したほうが分かりやすくなるかと思うので、追記をご検討いただきたい。

○ 事務局

承知いたしました。

○ 日野会長

他に質問や意見はございませんでしょうか。

それでは一部加筆を事務局にお願いしたところも含めて、本案に御異議はございませんでしょうか。

～異議なしの声～

○ 日野会長

御異議がないようですので、令和5年度地域公共交通改善事業の評価は承認ということにいたします。

次に進みまして、次第の3、報告に移ります。報告(1)、「路線バス状況報告について」に移ります。事務局から説明願います。

○ 事務局

報告資料1の1ページ目は、男鹿市の路線全体の利用実績の合計です。令和2年の再編から8～9万人に利用されてきましたが、令和5年度に初めて合計10万人台に至ることができました。左の小計は各輸送人員の比較の表となっております。国庫補助路線は、五里合線、男鹿南線、船越線、潟西線、男鹿北線となっており、JR男鹿線と接続している幹線ですので、全体的に市内では利用者数が多い路線となっております。

おがぐるは、令和3年度から運行を開始しており、船川と船越での循環線として運行開始したものです。買物を目的とした路線として導入しているため、いとくが船川から船越へ移転したことへ対応し、今の路線となっております。併せて、脇本～船越への循環性も取り入れ、通院や買物に使える路線としています。市民の方々に認知されはじめており、利用実績も令和3年度時点は4,000人弱が令和4年度には5,000人台まで延びており、令和5年度には3月の改正で一部便を土日祝日も運行するように見直した結果として、利用者が2倍に伸びております。車両は10人程度乗れるジャンボ車両を導入しております。JRとの連携として、JR男鹿線のSuica導入を契機とし、おがぐるでも実証的にSuica決済端末を現在導入させていただいています。

利用状況のまとめとして、今年度は昨年度と比較して9,600人の増加となっております、人口が令和5年9月末では24,089人、前年度が24,958人になりますので、800人弱人口が減少しています。網形成計画の基本目標は1市民あたりの平均利用回数を指標としていますが、令和5年度は4.4回、昨年度は3.8回となっております。人口減少が数字を後押ししたことも考えられますが、利用者数は伸びており、目標を達

成しています。年間700人以上の人口が減っており、今後はさらなる減少が見込まれますので、達成した目標を維持し続けられるように利用者増に引き続き取り組んでまいります。

また、現在は男鹿市全ての路線を乗り放題で使うことができる共通乗車券を導入しています。利用期間は1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月の3種類の期間を販売しています。長期の共通乗車券はよりお得になる価格設定もしており、共通乗車券の利用割合が前年度は44%でしたが今年は46.2%と利用が徐々に伸びています。

なお、市民1人あたりのおがぐるの利用者数は平均2.7人とご説明しましたが、前年度は1.8人であったことからかなり伸びています。利用者数の平均を2人以上にするという路線の目標を達成しています。

バス停デザインの変更の進捗状況は、業者には発注済みで、今年度中に市内全体の半数程度の219基のバス停板面の更新を予定しています。予算の一部は当課で実施している「企業版ふるさと納税」を活用しており、一部のバス停板面には寄付事業者の名前を記載する予定です。

続いて6ページは、7月の大雨災害の影響についてです。主要道路である茶臼峠が、7月の大雨に伴う土砂災害で通行止めが続いています。そのため、経路を生鼻崎側の海沿いの通りに変更しており、一部迂回、バス停の臨時移設等を実施しています。影響を受けているバス停は脇本の「登山口、田谷沢、峠下」の3バス停であり、住民の方々にはご迷惑をおかけしています。臨時移設について、児童の利用があるバス停「餅ヶ沢」は迂回が難しいことから、餅ヶ沢からヤクルト営業所がある交差点付近の「電気発祥の地」のスペースに臨時移設しています。また「打ヶ崎」バス停も、積雪によってバスの迂回スペースが利用できないことから、12月より臨時バス停をNTT脇本電話交換所付近に移設しています。スペース及び収支の兼ね合いで、一本のみ移設しての対応です。

最後に7ページは、次年度以降の運行について、現在寄せられている路線へのご意見を記載しています。バス停「餅ヶ沢」は移設前の旧男鹿高校前よりも便利だと言う声を多く得ており、今後は地域と相談の上、正式な移設を検討していきます。続いて脇本駅、脇本病院前のバス停については、脇本駅から船川まで延伸した路線がそのバス停を上下の両方とも通過しますが、上りは上り、下りは下りのバス停しか乗れない状況です。運転手が待っている方にお声がけ等をしてはいますが、問題解消に向けたダイヤ変更を事業者と調整したいと考えております。男鹿北線のバス停「表町」は北浦郵便局の最寄りですが、一つ手前のバス停から歩いて利用している状況が散見され、表町周辺の利用者が少ないことも含め、北浦郵便局前に移動できないかとの提案がありました。また、北陽小学校の統廃合の予定もあることから、小学校前のバス停も含め、地域と相談し位置を検討していきます。

路線バスの観光利用について、先に説明したとおり、男鹿北線は観光利用を比較的に見込める路線だと考えています。観光客の利用増加が、今後の路線存続にも直結してくるのではないかと考えます。「雲昌寺」のあじさいの期間の男鹿北線は土日運休している便がJRとの接続や利便が良いため、観光客向けに時期限定で運行できれば良いのではと提案を受けております。また、予約運行となる加茂線や安全寺線について、特に安全寺線は、土日祝のみの予約運行ですが「なまはげ館」や「真山神社」に運行している路

線ですので、帰りの便として使える内容にできないか、事業者と増便やダイヤ調整を検討していきたいです。

報告1は以上です。

○ 日野会長

ありがとうございました。ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問ご意見などはございませんでしょうか。

○ 武内委員（男鹿市観光協会）

バス停の板面について、219基の変更を予定しているとのことでしたが、各板面のデザインは、各地域に関わるなまはげの面などをモチーフにしたような内容になるのでしょうか？

○ 事務局

各地域にお住まいの方々にも馴染み深いものになるよう、地域で使われていたなまはげの面のデザインの反映を予定しています。劣化が激しいものから優先的に変更を進めていきたいと考えています。

○ 日野会長

具体的なアイデアがなく申し訳ないですが、このような資源をPRしていく必要があると思います。好きな人にはきっと響く内容だと思いますので、観光資源として活用いただきたい。

○ 進藤委員（男鹿市PTA連合会）

コロナの自粛も落ち着いており、人の動きも出てきています。最近ではポケモンなどを集めるコレクターも多いです。勝手なことを言って申し訳ないですが、バス停を巡って集めて、全て集めきった後に景品が出るような取組をすれば、市外からも人が訪れるのではないのでしょうか。

○ 日野会長

すごく高価な景品でなくてもいいと思います。せっかく良いデザインですのでご検討いただきたい。

○ 高野委員（北浦地区郷中連合会）

公共交通の観光利用についてですが「雲昌寺」のあじさいに関わっている者として、私からも運行を是非検討していただきたいです。期間中は約1,100の方が訪れていますので、中には公共交通を利用する人もいます。

○ 日野会長

ほかにご質問ご意見等はございませんでしょうか。もしご質問がないようでしたら、次に進ませていただきます。

報告の2、男鹿市地域公共交通計画の策定状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○ 事務局

「男鹿市地域公共交通網形成計画」は策定から5年経過し、今年度末で計画期間満了となりますが、次期計画となる「男鹿市地域公共交通計画」の策定を進めております。進捗状況として、事務局でプロポーザルを行い、株式会社KCS様を選定しています。本日はKCSの増子様に来ていただいております。期間も短く、豪雨等々で遅れておりますが、市民アンケートの実施・回収が終了し、対象者の約50%の回答を回収しました。今後、反映させた内容をご報告できればと考えております。

また、現状の骨子案のたたき台も皆様に配布しています。基本的に現計画に基づいた取組で利用人数が増えていることから方向性は間違っていないと考えており、現況の各数値等々を踏まえながら、JR男鹿線や男鹿市内の公共交通全ての部分に関して利用促進を図る計画を作りたいと考えています。本日は時間が限られているため、細かい説明はできませんが、資料を本日お持ち帰りいただき、次回の1月25日の開催までにバスの利活用などについてご意見を事務局にお寄せいただければ幸いです。いただいたご意見を案に盛り込んで、最終的な計画とさせていただきたいと考えております。皆様ご協力をお願いいたします。

骨子案の右側の方に、施策の展開の方向性の案や基本方針を示しています。利用促進施策等は、一般的に多く求められている事項を盛り込んだ内容ですが「市内で実施できるかどうか」や「検討事項の内容も含めて是非これを目指して欲しいこと」、「今流行りの取組」などについてご意見いただければ幸いです。

今後はJRが運用している「TOHOKU MaaS との連携」や観光向けの「一日共通乗車券の作成」などを利用促進事業として、実施したいと考えております。

報告資料2の最後の次回総会について、令和6年1月25日木曜日13時半から男鹿市役所での予定で調整しております。ご協力よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○ 日野会長

ありがとうございました。ただ今事務局から説明がありましたが、次回の総会までについて、ご質問ご意見などはございませんでしょうか。

○ 佐藤委員（男鹿市副市長）

市内の公共交通の実績報告の中では順調に利用者数が伸びているとの説明があり、そのとおりかと思いますが、先日JRの収支が示され、赤字路線もあるようです。男鹿線がすぐにどうこうという話ではないと思いますが、骨子案では鉄道との連携に関する部分が今はよく見えていないので、他の地域が鉄道をどのように位置づけているか参考にしながら、委員の皆さんからもご意見をいただければと思います。

○ 尾上委員（東日本旅客鉄道株式会社秋田支社）

JRについて触れていただいたので、お話をさせていただきます。先般、収支について公開させていただいたが、お話のとおりすぐにどうこうというものではありません。しかしながら、船越～男鹿間の利用は他の区間と比べると利用は少ないです。皆さんに使っていただかないと衰退してしまうため、少しでも鉄道を使っただけのように取り組んでいきたいです。次回までに質問や意見を検討させていただきます。

○ 日野会長

地域によっては『放っておいてもJRは走らせてくれる』という認識を持っている場合もあるようです。しかしながら、今回の収支の公表は『JRに任せきりではなく、地域の公共交通として地域でも考えてほしい』という意思表示だと感じました。そのような流れが事業者にも伝わるように内容を計画に位置付けておく必要があると思います。どの用に記載するかは難しいかと思いますが、ご検討いただきたいです。

質問になりますが、指標2はどのような指標になるのかご説明頂きたいです。

○ 事務局

良い表現が思い付いていないところではありますが、既に定額利用や共通乗車券の発行に力を入れています。特に共通乗車券における取組について、どれだけ使っているかを評価するための指標として収支や支払額を設定したいと考えています。

○ 日野会長

意図は分かりますが、個人的には違和感があり運賃を上げると取られかねないので、他にもっと良い表現がないか他の自治体の事例を参考にしながらご検討をお願い致します。

○ 事務局

引続き検討いたします。

○ 日野会長

ほかにご質問ご意見などはございますか。

先ほど事務局からもありましたように何かあれば、事務局に次回総会までご意見いただければと思います。

最後にその他に移ります。事務局からお願いいたします。

○ 事務局

その他としましては、資料について、先ほどお伝えしましたとおり1月の協議会、ご協力をよろしくお願いいたします。

○ 日野会長

ありがとうございます。その他にご質問などはございますか。

○ 佐藤委員（男鹿市副市長）

先週から大雪に見舞われ、男鹿市内でこのような状況に慣れていないということもあり、除雪に関して大変市民の皆様や交通事業者の皆様にご不便おかけしております。市の管理でなく、県の管理の道路のため、朝から県の方に電話で問い合わせしております。市役所前の道路も今日明日中にはしっかり行われるかと思えます。ご不便、ご迷惑おかけしますが、よろしくご協力をお願いいたします。

○ 日野会長

他によろしいですか。

以上をもちまして、本日の議事日程を終了いたします。委員の皆様には進行にご協力いただきましてありがとうございました。

○ 事務局

これもちまして本日の公共交通活性化協議会総会を終了させていただきます。1月25日も協議会がございますので、またよろしくお願ひしたいと思います。本日はご出席ありがとうございました。以上で終了いたします。

（午前11時05分閉会）